

平成29年度 学校評価表

島根県立出雲高等学校

出雲高校 キーワード&スローガン
「自立」「協働」「挑戦」
 ↓
さあこれから!

【学園の指標】

- (1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園
- (2) 誠実、勤勉にして、社会的秩序を重んずる学園
- (3) 職員、師弟、校友相睦み合う、友愛協和の学園

(1)自主的な高校生活【自主自立】	①将来の目標を明確にし、その実現に向けて努力する。 ②出雲高校生としての誇りを持ち、品位ある言動を心がける。 ③心身の健康の保持・増進に努める。
(2)活気に満ちた高校生活【文武両道】	①日々の授業を大切に、家庭学習の充実をはかる。 ②部活動・生徒会活動・学校行事等に積極的に参加し、心身の成長をはかる。
(3)心のふれあう高校生活【友愛協和】	①気持ちの良い挨拶をこころがけ、豊かな人間関係を築く。 ②友人や周囲の人を思いやる心を培うとともに、互いの存在を認め合う。 ③さまざまな機会をとらえ、教職員や地域の人々とふれあう機会を持つ。

評価の指標(肯定的評価値の割合) A:80%以上(満足できる) B:60~79%(もう少し) C:50~59%(改善が望ましい) D:49%以下(改善が必要)

教育目標	領域	目標 (評価項目)	目標達成のための施策	主たる 担当分掌	評価 指標	自己評価					学校関係者評価		
						目標値 [a] % (昨年)	評価値 [b] % (昨年度)	達成指数 [b/a] (昨年)	平均評点 [総和/4] (昨年)	評価 (昨年)	取組状況と課題	改善策	総合 評価
地域・社会のリーダーとして貢献できる人材の育成	環境整備	学びやすい環境の構築 働きやすい環境の構築	・教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動が行われている。	管理職	80	98.2	123%	3.5	A	・重点目標達成のために、全教職員が連携して取り組んだ。自己評価における肯定的評価の比(%), 平均評点ともに全体的には高い調査結果となった。	・「出雲高校のすがた」を用いて、全教職員のベクトルを整え、地域や社会のリーダーを育成する教育活動を充実させる。	A	・生徒の学習活動に関わる評価は全般的に良好であるが、生徒の自己評価は1年生が一番低く、3年生に向けて学年進行で向上している。特に1年生に対して学習活動への意識を毎学期調査をすることで、その変化の様子を把握し、対応を検討する必要がある。
			・PTA活動やPTAの広報等を通して保護者との連携を図る。	総務	80	96.4	121%	3.4	A	・PTA活動については、研修会(講演会)の参加者が少ないなど、広報に課題が残った。	・講演会の日程、講師や内容等についてPTA役員と検討し、広報活動への一層の努力をとおして参加者の増加と活発な活動に繋げたい。		
			・ホームページにより保護者・地域への広報活動を行う。	図書文化情報	80	96.4	121%	3.3	A	・学校ホームページについては、昨年度から保護者の利用状況調査を開始した。これにより、日々のホームページ閲覧のデータが得られるようになった。	・ホームページ閲覧データの分析をとおして、どれだけのデータが閲覧されているかを検討し、一層有用なホームページの運用を図りたい。		
			・生徒の健全な教養を育成するために適切な資料を整え、利用しやすい図書館運営を行う。	図書文化情報	80	98.2	123%	3.6	A	・生徒の学校評価の内、「図書館の利用のしやすさ」に関する一年生の評価が昨年度に引き続きや低い。これは、一年生のSS基礎の授業が視聴覚教室で主に実施されており、二年生が図書館でSS探究・SG探究の授業をしているため閲覧等が行いにくいことにあると思われる。	・授業や閲覧作業等の重複の解消はすぐに解決できる問題ではないが、今年度は図書館のパーティションを新たに設けるなどの改善を行った。今後とも図書館のレイアウトの変更などで改善できるか考えてみたい。		
			・学習活動に即応できるICT機器利用の環境を整える。	保健	80	87.9	110%	3.3	A	・ICT機器の充実がなされ、それに合わせて視聴覚教室などのICT機器の使用の明示、教室内の附属機器の整理等を推進した。	・ICT機器の活用が促進され、視聴覚機器の活用機会が増加したことが評価されたと考えている。		
			・校内美化が保てるよう、積極的に清掃活動を行う。	保健	80	82.5	103%	3.0	A	・清掃や「ゴミ」についての評価は昨年より0.1ポイント下がってしまった。掃除の取り組みが早くなるように定期的な働きかけをしていきたい。 ・昨年度は「各クラスへの古紙回収箱の設置」、昨年度は「不要なゴミ箱の撤去などゴミ箱の縮小化」と対策を講じてきたが、今年度はそういった特別な対策は行ってないことが原因の一部かと思う。	・可燃ゴミの処理量は、H27:6636kg→H28:8102kg→H29:6464kg(4~12月で比較)と減少している。削減の取り組みが早くなるように定期的な働きかけをしていきたい。 ・各クラスに設置した古紙回収箱は活用されているようなので、ゴミの減量化について、啓発活動を工夫して積極的に取り組めるよう努めていきたい。 ・清掃については、学年部と連携して取りかかりが早くなるよう工夫していきたい。		
			・費用対効果を考えた効率的な予算執行を行う。	事務	80	96.6	121%	3.4	A	・各部・教科への予算要望調査や教育環境の変化を把握し、より高い効果が得られるよう計画的で効率的な予算執行を行った。	・限られた予算なので、今後も費用対効果や優先順位に留意し適正な予算執行に努めたい。		
	人権尊重の精神の育成	自他を尊重する精神の育成 豊かな人間性の育成	・生徒が主体的に取り組めるような生徒会運営を行う。	生徒部	80	98.2	123%	3.4	A	・昨年度と同程度の取組を維持することで、ほぼ計画通り実施できた。昨年度に続き、非常に高い評価を得た。	・生徒会のリーダー性の育成とともに、より多くの生徒が主体的に生徒会行事に参加するように指導を続ける。	A	・生徒は多忙な中でも部活動や学校行事、様々な生徒間の関わり合いの中で、しっかりと学校生活に向かい合っている。将来的にバランスのとれた社会人に成長してほしいと思う。
			・図書館からの情報発信を組織的にし、生徒の読書活動・資料活用の推進を図る。	図書文化情報	80	98.1	123%	3.5	A	・昨年度と同程度の取組を維持することで、ほぼ計画通り実施できた。昨年度に続き、非常に高い評価を得た。	・「図書館ニュース」の発行、HPの内容の充実をさらに進め、引き続き情報提供に努める。またSSH、SGH及び教科の学習活動も引き続き積極的に支援する。		
			・人権・同和教育に係るホームルーム活動や講演会等の学習をとおして、人権感覚を育成し、自他の人権を尊重しあう意識の醸成を図る。	人権・同和教育	80	89.5	112%	3.1	A	・例年通りの計画に基づいているものの、各クラス・学年ごとの活動が大半を占め、全教職員で取り組む実践が少なかったことが反省点である。	・実践の場の確保を果たすために、次年度に向けて今年度全体計画を見直ししていきたい。		
			・いじめに関するアンケートやアンケートQ/U等を活用し、いじめを許さない意識を醸成する。	生徒	80	94.7	118%	3.3	A	・2回のアンケートQ/Uと4回はいじめに関するアンケートを実施した。集計・検討・指導の対応が昨年以上スピーディに実施できた。	・いじめに関するアンケートについては、年度途中でより一層直接的な質問項目に改める改善を行ったが、次年度に向けてさらに適切かつ即応性に富んだ実施を行いたい。		
	規範意識の定着 基本的生活習慣の確立	規範意識の定着 基本的生活習慣の確立	・服装検査や街頭指導、集会指導等のあらゆる機会をとらえて、基本的生活習慣の確立にむけた指導を行う。	生徒	80	71.9	90%	2.8	B	・挨拶、服装の状況は全体でみると良好であるが、個々には挨拶ができない生徒や服装が乱れている生徒も見受けられる。例年並みの指導を行っているが、個々の指導がなされていないことが数値の減少の1つの原因ではないかと思われる。	・服装指導、挨拶運動、遅刻防止のための啓発活動など実施に合わせて適宜行えるよう教職員の共通理解を図り、生徒会なども協力して実施していけるよう工夫する。	B	・部活動に係る評価は昨年度と変わっていないが、顧問の教員は所属する生徒への理解を一層深めるよう努め、部員の行動の把握を細やかに行っていただきたい。 ・目標達成のために、ポイントを絞って取り組むことがよい。
			・部顧問や大会・遠征等の支援を行い部活動の活性化を図るとともに、規律ある活動に向けた指導を徹底する。	教職員自己評価における肯定的評価の割合	80	71.4	89%	2.8	B	・校内申し合わせ事項の徹底を図り、規律ある部活動の実施につなげる取り組みに検討の余地があると感じる。	・校内申し合わせ事項の見直しと徹底を図り、規律ある部活動の実施に取り組む。		
			・街頭指導や自転車点検等の施策を行うことで、生徒の交通安全指導を徹底する。	生徒	80	84.5	106%	3.1	A	・肯定的評価の数値は下がっているが、強い否定的評価の数値はあまり変わっていない。特に保護者に対して、学校での指導や取り組みが十分に発信できていないと考える。	・今後とも自転車運転者、歩行者として守るべき法令の理解の徹底に取り組む。また、交通安全に寄与する自覚と責任感を持たせるよう指導を継続する。さらに、本校の生徒指導の取り組みを学年通信などを通して情報発信し保護者との連携を深めていく。		
	確かな学力の養成	基礎・基本の定着 主体的な学習態度の育成	・各教科と連携して教員の指導力向上やアクティブラーニング等の指導方法の研究を行い、教科指導の充実を図る。	教務	80	91.2	114%	3.3	A	・概ね良好な評価をいただいた。教科との連携については、教科主任会において、教科目標・教育課程・授業改善研修・ICT機器の導入など様々なテーマで検討してきた。また、公開教育研修会、授業互見などを行い授業の質的転換の推進に努めた。	・新テストへの対応について、今後各教科やキャリア教育と連携しながら教科主任会などを利用して推進していきたい。また、研修についても実施を検討したい。 ・「アクティブ・ラーニング」に関する取組を新たなテーマとして、各教科で一層の教科指導充実を図っていく。	A	・「学習の仕方や意識」について、新入学時には生徒は十分に身につけたり理解したりできていないと思う。入学後に組織的な「学び方の指導」の機会を設定することが効果的ではないか。 ・生徒の可能性を見つけ、能力を引き出し才能を開花させるのは、最終的には教員の備えている「教師力」だと思ふ。これからは校内研修など「教師力」を高める取組を心がけてほしい。
			・土曜補講を行い、自学自習の意識の高揚と積極的な学習参加の姿勢の醸成を図る。	キャリア教育 学年部	80	86.2	108%	3.2	A	・休日の自習教室開放、1・2年生土曜補講について取り組んできたが、おおむね肯定的な評価を得ることができた。	・必要性・課題について教科・学年会等で議論し、抜本的に考えていきたい。有効性はあると思ふが、意義・内容・方法等いろいろな意見があるので集約していきたい。		
			・3年生の放課後補講を適切に実施し、生徒個々の進路志望の達成に向けた学力向上に役立てる。	キャリア教育 学年部	80	90.6	113%	3.3	A	・ほぼ計画通り実施することができた。校内評価において、高い評価を得ることができた。	・必要に応じて実施することができた。校内評価において、例年以上の高い評価を得ることができた。		
	進路目標の実現	望ましい職業観の育成 能力・適性の開発	・3年間を見通した進路指導計画の下、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。	キャリア教育	80	98.3	123%	3.5	A	・ほぼ計画通り実施することができた。校内評価において、例年以上の高い評価を得ることができた。	・金曜特別講座や朝日講座の受講者数を増やす工夫をしていきたい。キャリア教育全体計画についての評価と改善を継続して行っていく。	A	・キャリア教育部が作成した生徒全員に配布しているGritizm notelは、生徒の自律的なスケジュール管理やポートフォリオの作成、自宅学習の管理などに効果的に利用されていると思う。高校生活をおとして、自律の意識と習慣づけを学ばせることは大切だと思う。 ・スーパーサイエンスハイスクールやスーパーグローバルハイスクール事業の中で進めている「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学習」への取組は、教育の中で一層重要となる指針である。今後とも継続的に研究と実施を心がけてほしい。 ・産業教育フェアなどの地域・企業を知る機会のある催しに、積極的に参加するようにしてほしい。
			・進路希望調査、職業人講話などを行い、キャリア教育に対する意識の高揚に努める。	キャリア教育	80	98.3	123%	3.5	A	・生徒が自分の進路に対して興味・関心を高めるような工夫を一層進めていきたい。	・生徒の進路保障のために、全校の協働体制の下で、必要な個別指導を実施していく。		
			・個別添削、小論文指導や面接指導を組織的にし、進路実現を支援する。	キャリア教育	80	87.3	109%	3.2	A	・SSH・SGH事業の推進にあたっては、全ての先生方の協力により、事業の全体構造が確立した。今年度は、SSHの第2期申請に向けて、先生方には様々な角度から幅広くご意見をいただいた。継続課題として「課題研究」の効果的な指導法と質の改善があげられる。今後とも、生徒の多様な能力を伸ばす教育活動に全校を挙げて取り組んでいきたい。	・1年SS基礎(SS探究基礎)では、より一層生徒の汎用的能力育成に向けプログラム改善に努めていく。 ・2年理科SS探究・SG探究では、外部連携機関と本校指導教員との連携をより一層密にしていきたい。 ・2年理科SS探究・SG探究では、活動の見直し(計画性)をより明確にして取り組むよう改善に努めていく。 ・3年SS探究・SG探究では、出雲市及び島根大学との連携をより一層進めていく。 ・関西SS・SG研修及び海外研修は、より充実した研修の実施に向けプログラム改善に努めていく。		
安全対応能力の向上	危機管理体制の確立 危機回避・対応能力の向上	・危機管理マニュアルにより事故発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。	管理職	80	91.2	114%	3.2	A	・事故・悪天候などの際、速やかな指示・対応を行うよう心がけた。危機管理マニュアルについては、Jアラート対策について追補部分を策定した。	・危機管理マニュアルがそれぞれの場合に応じて対応したものとなっているか定期的に見直す。	A	・学校運営全体について、総論としては適切に運営されている。今後とも改善を図りながら継続的に取り組んでほしい。	
		・学校防災計画を作成し、計画的避難訓練を実施することで生徒・教職員への周知徹底を図る。	総務	80	98.2	123%	3.3	A	・学校防災計画を作成し、計画的に実施できた。また、避難訓練については保健部と連携し、配慮が必要な生徒への対応も実施できた。	・火災や地震災害を想定した訓練を計画的に実施し、原子力防災についても周知徹底していきたい。防災対策LHRの内容も火災・地震に限定しないで、総合的に実施したい。			
		・施設設備の安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の確保を図る。	保健	80	96.5	121%	3.2	A	・ほぼ計画通り実施することができた。校内評価において、高い評価を得ることができた。	・引き続き危険箇所の把握に努め、計画的な整備を進める。			